

2023年3月期 決算  
決算説明会

2023年4月28日

株式会社 トクヤマ



# 2023年3月期決算のポイント

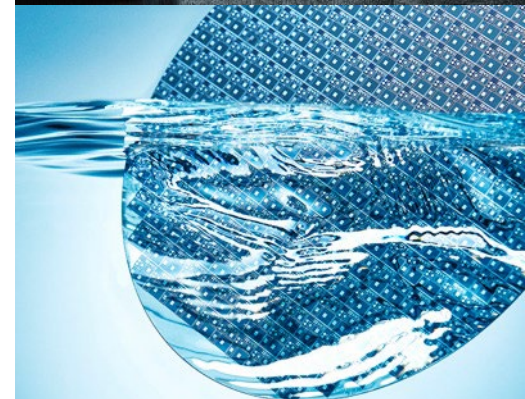
- 化学品、セメント、半導体関連製品などで販売価格修正を進めたこと等により増収であったものの、原燃料価格や物流費などのコスト増、市況の悪化等により減益
- 2024年3月期見通しは、半導体市場の減速の影響が見込まれるものの、化学品やセメントの販売価格修正の浸透等により増収増益を見込む
- 2024年3月期より有形固定資産の減価償却方法を定額法に変更
- セメントキルン1系列の停止検討を開始

## CONTENTS

- ① 2023年3月期 決算
- ② 2024年3月期 業績予想
- ③ トピックス
- ④ 補足資料

# ① 2023年3月期 決算

1. 決算概要
2. セグメント別売上高／営業利益
3. 営業利益増減分析



## 1. 決算概要

(億円)

	2022年3月期	2023年3月期	増 減		主要な変動要因
			金額	%	
売上高	2,938	3,517	+579	+20	化学品、セメント及び 半導体関連製品価格修正
営業利益	245	143	△102	△42	物流費及び原燃料コスト増加 塩ビモノマー海外市況下落
経常利益	258	147	△110	△43	営業利益の減少
親会社株主に帰属する 当期純利益	280	93	△186	△67	経常利益の減少 税金費用の増加
1株当たり 当期純利益 (円)	389.09	130.15	-	-	-
為替 (円/\$)	112	135	-	-	-
国産ナフサ価格 (円/kℓ)	56,800	76,600	-	-	-

## 1. 決算概要

(億円)

	2022年3月末	2023年3月末	増 減	主要な変動要因
総資産	4,332	4,783	+451	原燃料単価上昇に伴う 棚卸資産の増加
自己資本	2,245	2,294	+49	親会社株主に帰属する 当期純利益の積み上げ
自己資本比率	51.8%	48.0%	△3.8ポイント	-
有利子負債	1,092	1,424	+332	長期借入金の増加
D/Eレシオ	0.49	0.62	+0.13	-
ネットD/Eレシオ*	0.12	0.32	+0.20	-
1株当たり純資産 (円)	3,120.25	3,189.01	-	-

\*ネットD/Eレシオ：（有利子負債－現預金・現金同等物・金銭信託）／自己資本

## 2. セグメント別売上高／営業利益 (前期比)

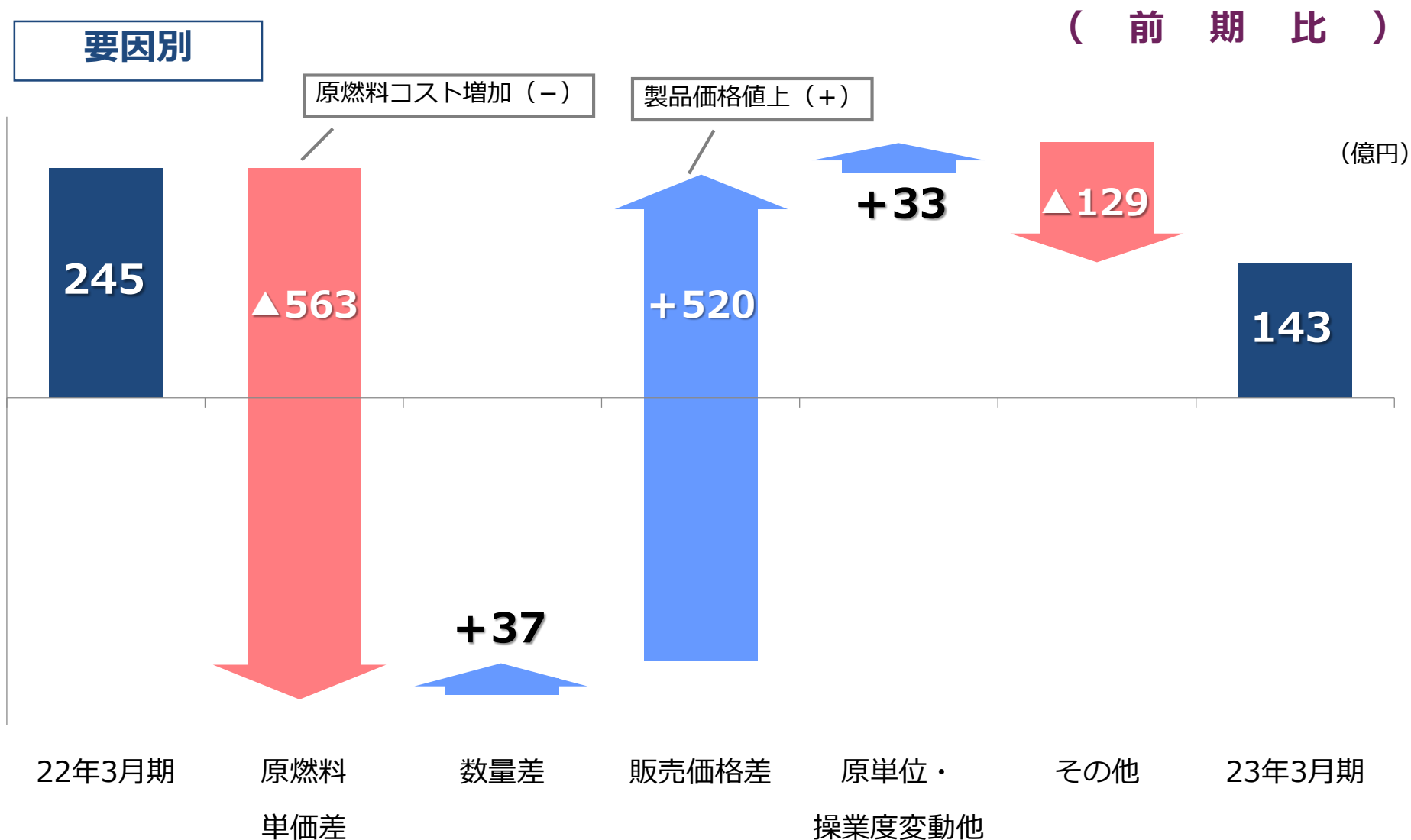
(億円)

	2022年3月期		2023年3月期		増 減			
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	%	営業利益	%
化成品	1,014	142	1,162	68	+147	+15	△73	△52
セメント	503	△19	585	△37	+81	+16	△18	-
電子材料	749	72	915	70	+165	+22	△2	△3
ライフサイエンス	335	60	375	73	+40	+12	+13	+22
環境事業	103	△4	138	0	+35	+34	+5	-
その他	363	38	473	20	+110	+30	△18	△47
計	3,070	289	3,651	196	+580	+19	△93	△32
セグメント間 消去・全社費用	△131	△44	△133	△53	△1	-	△8	-
連結決算	2,938	245	3,517	143	+579	+20	△102	△42

(注) 各事業セグメントの売上高・営業利益にはセグメント間取引を含む

① 2023年3月期 決算

## 3. 営業利益増減分析





## ② 2024年3月期 業績予想

1. 業績予想のポイント
2. 業績予想
3. セグメント別業績予想
4. 営業利益増減分析
5. 投資計画
6. 株主還元



# 1. 業績予想のポイント

- 2024年3月期業績予想の前提条件は下記のとおり

為替	130円/\$
国産ナフサ価格	67,000円/kℓ

- 半導体市場の減速の影響が見込まれるものの、化学品やセメントの販売価格修正の浸透等により増収増益を見込む
- 有形固定資産の減価償却方法を定額法に変更。この変更により今期の減価償却費は54億円減少する見込み
- 「電子材料」セグメントの名称を「電子先端材料」セグメントに変更（名称のみの変更）

## 2. 業績予想

( 当 期 比 )

(億円)

	2023年3月期実績	2024年3月期予想	増 減		主要な変動要因
			金額	%	
売上高	3,517	3,800	+282	+8	化学品・セメント価格修正
営業利益	143	300	+156	+109	原燃料価格一服 価格修正による収益性改善
経常利益	147	300	+152	+103	営業利益の増加
親会社株主に帰属する 当期純利益	93	220	+126	+135	経常利益の増加 税金費用の増加
1株当たり 当期純利益 (円)	130.15	305.77	-	-	-
為替 (円/\$)	135	130	-	-	-
国産ナフサ価格 (円/kl)	76,600	67,000	-	-	-

## 3. セグメント別業績予想

( 当 期 比 )

(億円)

	2023年3月期 実績		2024年3月期 予想		増 減			
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	%	営業利益	%
化成品	1,162	68	1,280	125	+117	+10	+56	+81
セメント	585	△37	690	60	+104	+18	+97	-
電子先端材料	915	70	1,030	90	+114	+12	+19	+28
ライフサイエンス	375	73	400	75	+24	+6	+1	+2
環境事業	138	0	80	0	△58	△42	△0	-
その他	473	20	450	20	△23	△5	△0	△2
計	3,651	196	3,930	370	+278	+8	+173	+88
セグメント間 消去・全社費用	△133	△53	△130	△70	+3	-	△16	-
連結決算	3,517	143	3,800	300	+282	+8	+156	+109

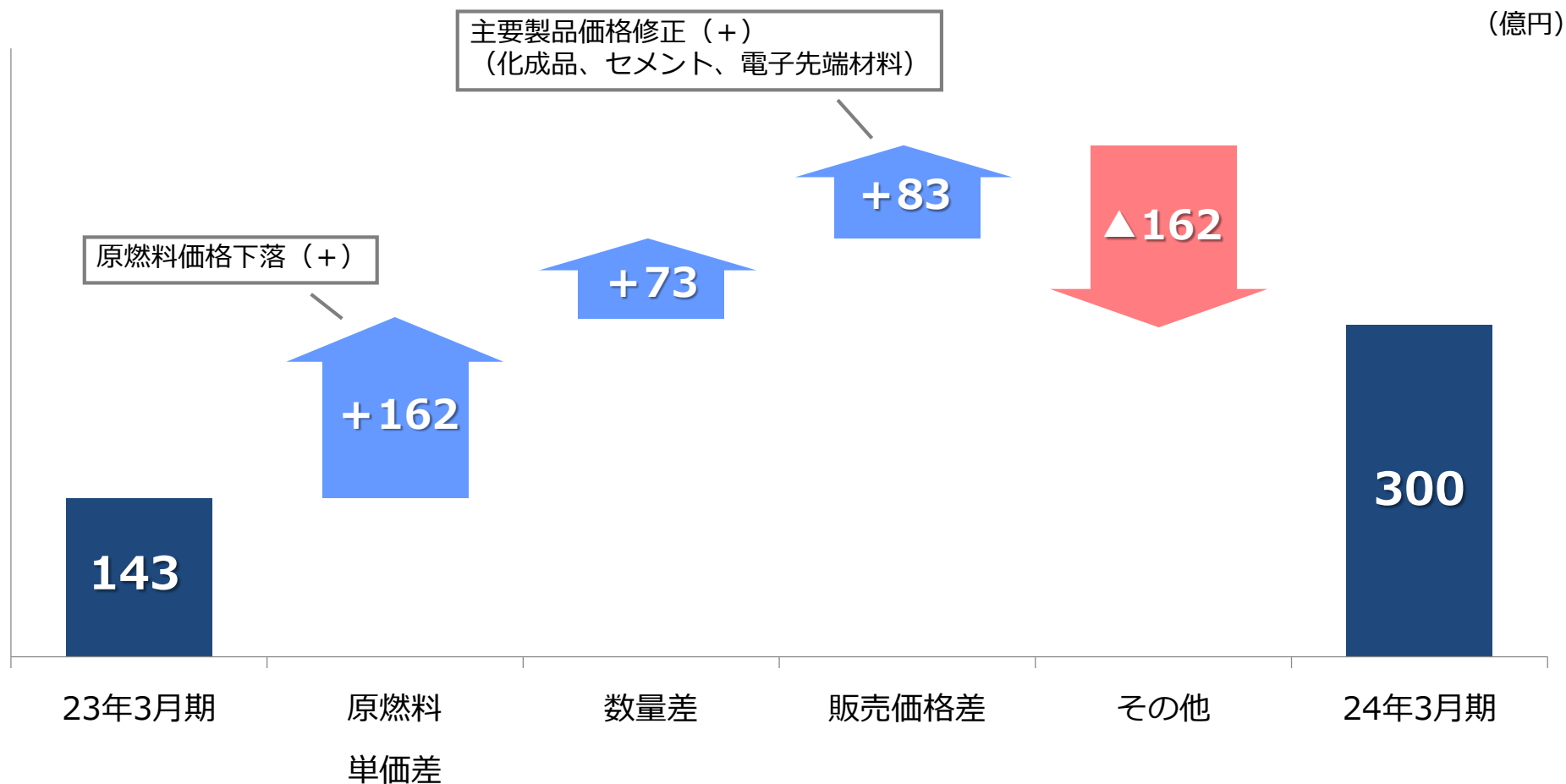
(注1) 各事業セグメントの売上高・営業利益にはセグメント間取引を含む

(注2) 「電子材料」セグメントの名称を「電子先端材料」セグメントに変更 (名称のみの変更)

## 4. 営業利益増減分析

( 当 期 比 )

要因別



## 5. 投資計画

連 結

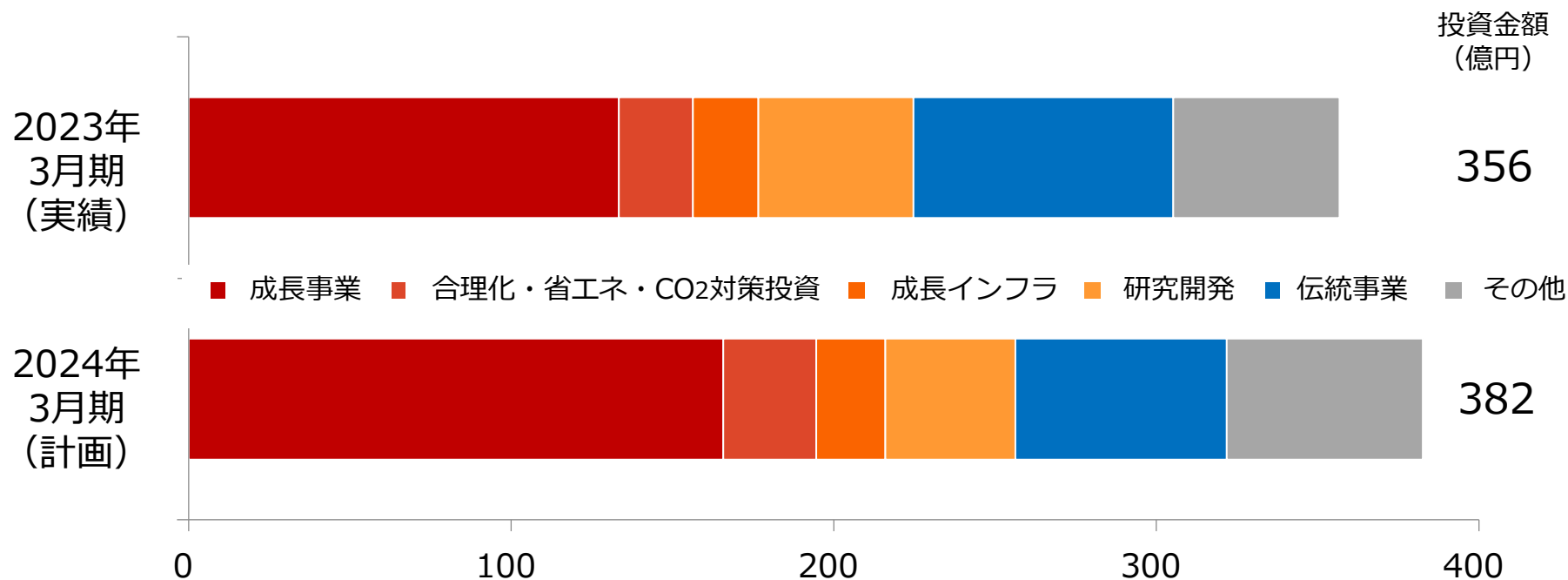
(億円)

	2023年3月期 実績	2024年3月期 予想	増 減
設備投資額	356	382	+25
減価償却費	207	184	△23
研究開発費	136	161	+25

## 5. 投資計画

## 設備投資 主な案件

2023年3月期（実績）	2024年3月期（計画）
高純度IPA 韓国JV工場建設他	歯科器材 製造能力増強
徳山化工 疎水性シリカプラント増強	発電所 バイオマス混焼関連投資
廃石膏ボードリサイクル事業 室蘭工場建設	DX関連投資



## 6. 株主還元

- 2023年3月期の期末配当は、予定通り35円を実施
- 2024年3月期の配当は、中間・期末とも35円を実施予定

年度	2018	2019	2020	2021	2022	2023 予想
中間配当金 (円)	25.0	35.0	35.0	35.0	35.0	35.0
期末配当金 (円)	25.0	35.0	35.0	35.0	35.0	35.0
配当性向 (%)	10.1	24.4	19.9	18.0	53.8	22.9



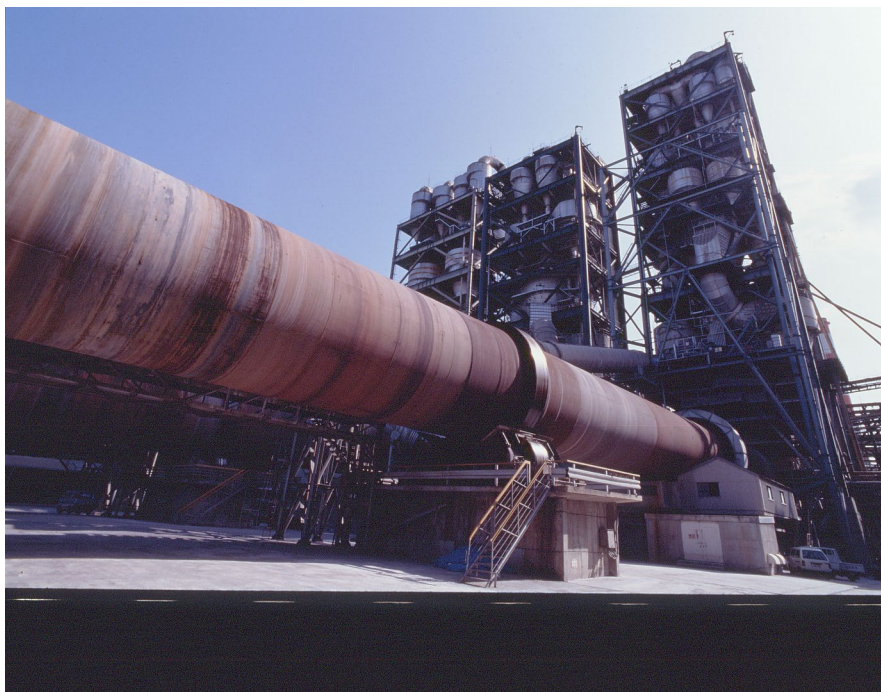
### ③ トピックス

1. セメントキルン1系列停止の検討開始
2. 株式譲渡による子会社の異動について
3. 償却方法変更に伴う修正・改定
4. 経営説明会開催について



# 1. セメントキルン1系列停止の検討開始

- 徳山製造所南陽工場（山口県周南市）に3系列のキルンを保有し、生産能力は合計で454万トン／年（クリンカ製造能力として）
- 国内のセメント需要の漸減や原燃料価格の高止まり等、外部環境の変化に応じた収益力強化のため、適正なセメントの生産体制構築の検討を開始



## 2. 株式譲渡による子会社の異動について

### (株) エクセルシャノンの株式譲渡

- ・ 環境事業セグメントの連結子会社、エクセルシャノンの株式を樹脂サッシ事業の発展を目的とし、以下の通りパナソニックHD（株）に譲渡決定  
（2023年7月3日譲渡予定）
- ・ 株式譲渡後、エクセルシャノンは持分法適用関連会社に

#### 出資比率

	トクヤマ	パナソニックHD
譲渡前	51%	49%
譲渡後	34%	66%

## 3. 償却方法変更に伴う修正・改定

償却方法変更により、以下について修正・改定

### 中期経営計画2025での最終年度数値の修正

変更点：① 2025年度営業利益 400億円 → 450億円  
② 2025年度ROE 10%以上 → 11%以上

### 業績連動型株式報酬制度の一部改定

変更点：中計期間の累計営業利益1,620億円→1,790億円

## 4. 経営説明会開催について

### ◆ 経営説明会の開催

内容：「中期経営計画2025の進捗」

日時：2023年6月2日(金)

マスコミ向け

10:30～

投資家・アナリスト向け

15:30～

登壇：代表取締役 社長執行役員 横田 浩  
代表取締役 専務執行役員 杉村 英男

詳細は別途ご案内

もっと未来の人のために

TOKUYAMA 

## ④ 補足資料

1. 連結財務諸表（要約）
2. セグメント別業績予想
3. 営業外損益・特別損益・金融収支
4. 業績推移
5. 設備投資額・減価償却費推移
6. 有利子負債残高推移
7. フリー・キャッシュフロー推移



## 1. 連結財務諸表（要約）

## 損益計算書

（億円）

	2022年3月期	2023年3月期	増減	
			金額	%
売上高	2,938	3,517	+579	+20
売上原価	1,984	2,610	△625	△32
販管費	708	764	△55	△8
営業利益	245	143	△102	△42
営業外損益	13	4	△8	△66
経常利益	258	147	△110	△43
特別損益	17	△3	△21	-
税前四半期純利益	276	144	△132	△48
法人税等	△5	50	△55	-
非支配株主損益	1	△0	+1	-
親会社株主に帰属する 四半期純利益	280	93	△186	△67

（注）差損益の表示は、利益を+、損失を△としている



## 1. 連結財務諸表（要約）

## 貸借対照表

（億円）

	2022年3月末	2023年3月末	増減	
			金額	%
資産合計	4,332	4,783	+451	+10
流動資産	2,239	2,536	+297	+13
有形固定資産	1,396	1,553	+157	+11
無形固定資産	26	34	+7	+29
投資その他の資産	669	658	△11	△2

	2022年3月末	2023年3月末	増減	
			金額	%
負債合計	2,002	2,367	+364	+18
流動負債	1,023	882	△140	△14
固定負債	979	1,484	+505	+52
純資産合計	2,329	2,416	+86	+4

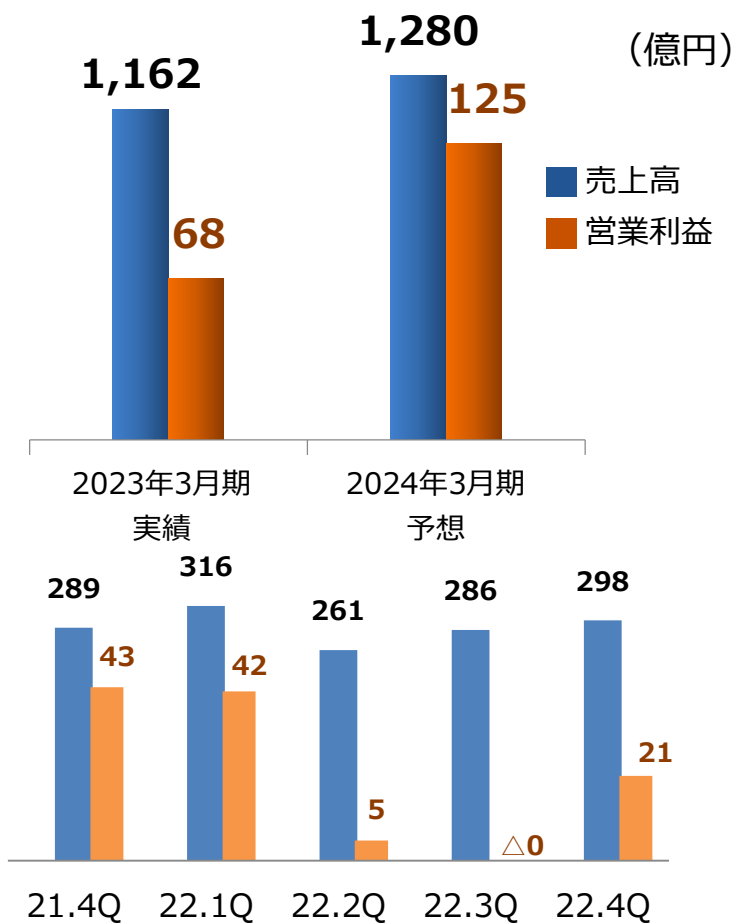
## 2. セグメント別業績予想

( 当 期 比 )

### 化成品

### 増収増益

### 定性情報



- ・原燃料価格の動向や、主要製品の海外市況など、収益面で変動リスクの大きい状況が継続
- ・固定費の削減によるコスト競争力強化を推進するなど、事業環境の変動に対応した施策の実施により、収益確保に努める

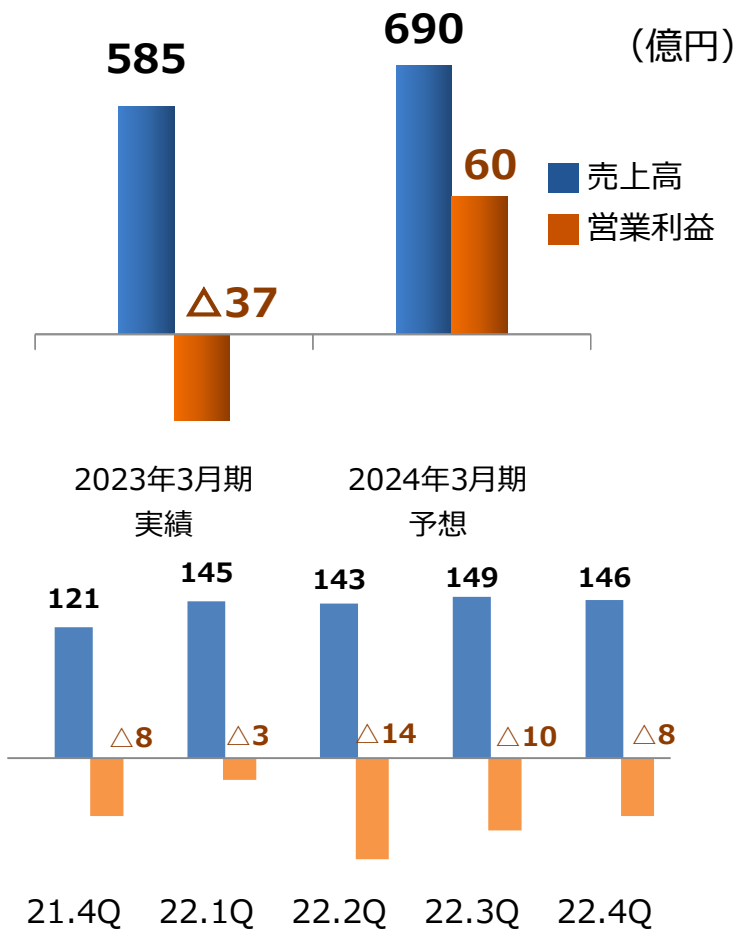
## 2. セグメント別業績予想

( 当 期 比 )

### セメント

### 増収黒字転換

### 定性情報



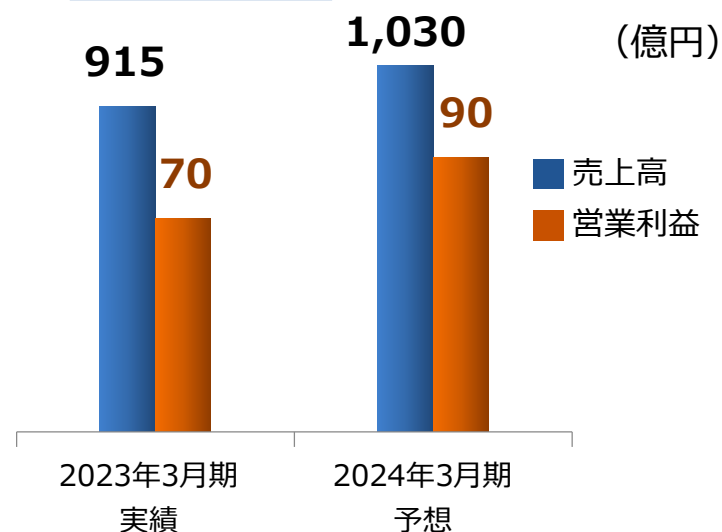
- 国内需要は、都市部の再開発工事の本格化等により緩やかな回復が見込まれるものの、公共投資の低迷等により、2022年度並みにとどまると予想。しかし、原料価格の動向等、事業を取り巻く環境は不透明な状況が続くと想定
- 引き続き販売価格の修正を進めるとともに、製造コストの徹底した削減等により、黒字化達成に努める

## 2. セグメント別業績予想

( 当 期 比 )

### 電子先端 材料

増収増益



定性情報

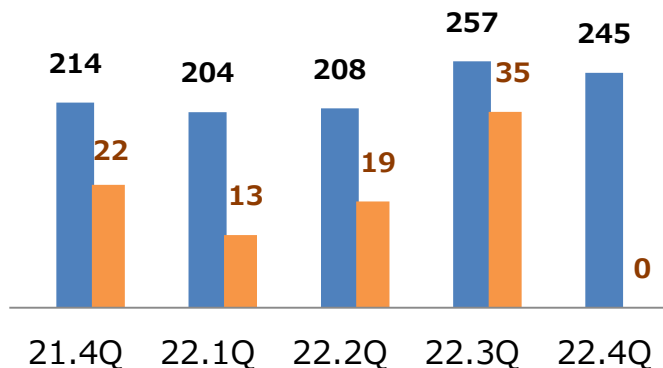
- ・半導体市場は、一時的に減速しているものの、中長期的には成長していくと予想

(半導体向け多結晶シリコン)

- ・品質を更に追求し、他社との差別化を図る

(ICケミカル)

- ・台湾及び韓国の製造・販売拠点を整備し、需要拡大に対応したグローバルでの供給体制の確立に注力



(放熱材)

- ・既存製品の拡販及び開発品の製品化を進める

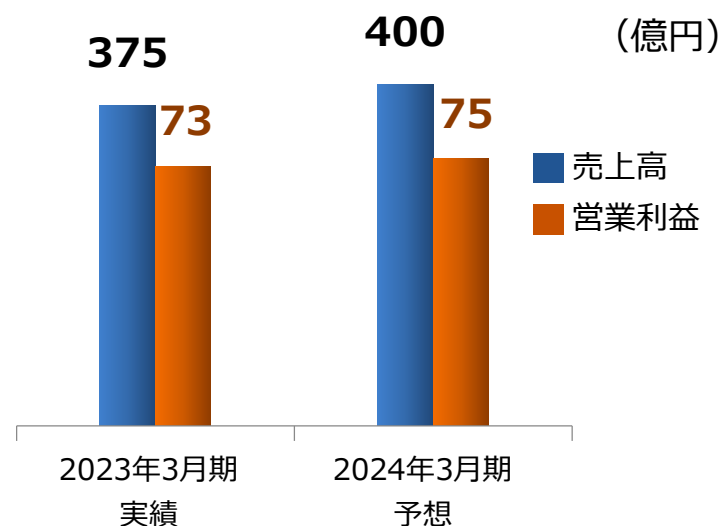
## 2. セグメント別業績予想

( 当 期 比 )

### ライフサイエンス

増収増益

定性情報

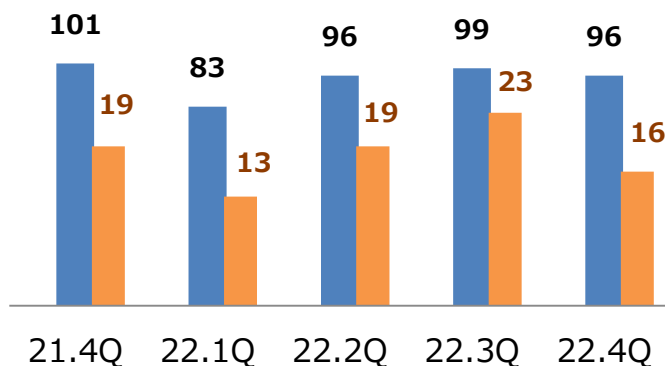


(プラスチックレンズ関連材料・歯科器材)

- ・海外向けを中心に堅調な推移を見込む。引き続き顧客ニーズや市場の変化に対応した新製品開発と販売活動に注力し、収益の拡大を目指す

(医療診断システム)

- ・主要製品の拡販に努め、収益の拡大を目指すとともに、診断試薬開発を推進



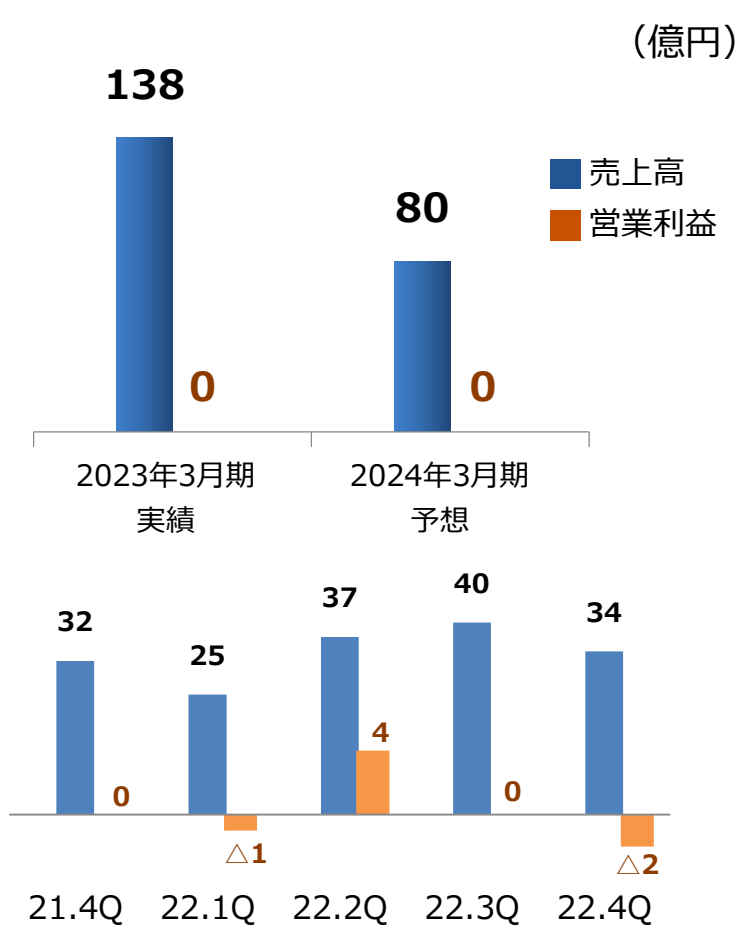
## 2. セグメント別業績予想

( 当 期 比 )

### 環境事業

減収減益

定性情報



- ・ 持続可能な社会の実現を目指し、イオン交換膜及び廃石膏ボードリサイクル等の既存事業の拡大を進めるとともに、CO<sub>2</sub>排出削減の技術開発及び事業化を加速し、事業ポートフォリオ転換への貢献を目指す

## 3. 営業外損益・特別損益・金融収支

## 連 結 (前 期 比)

(億円)

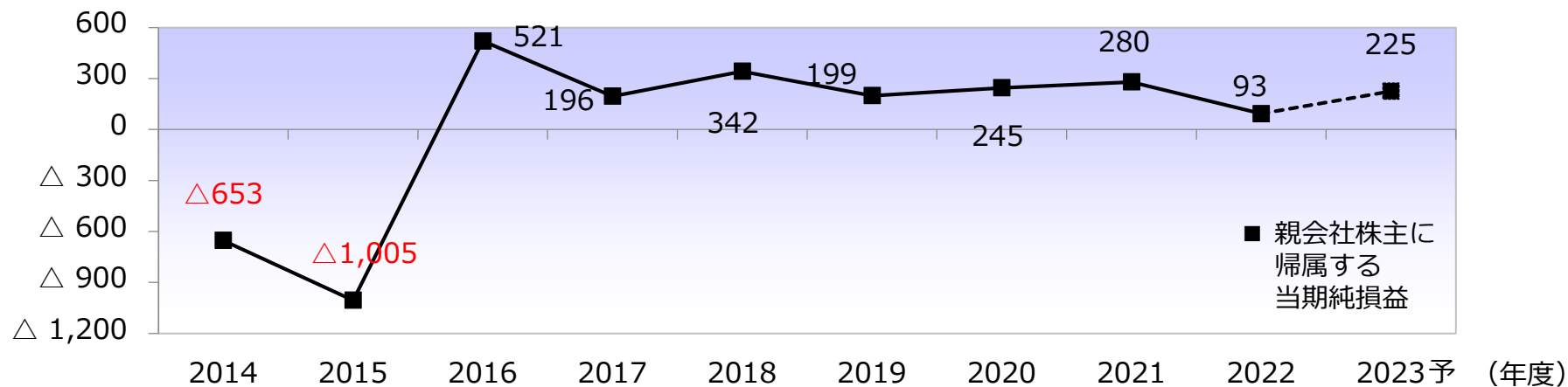
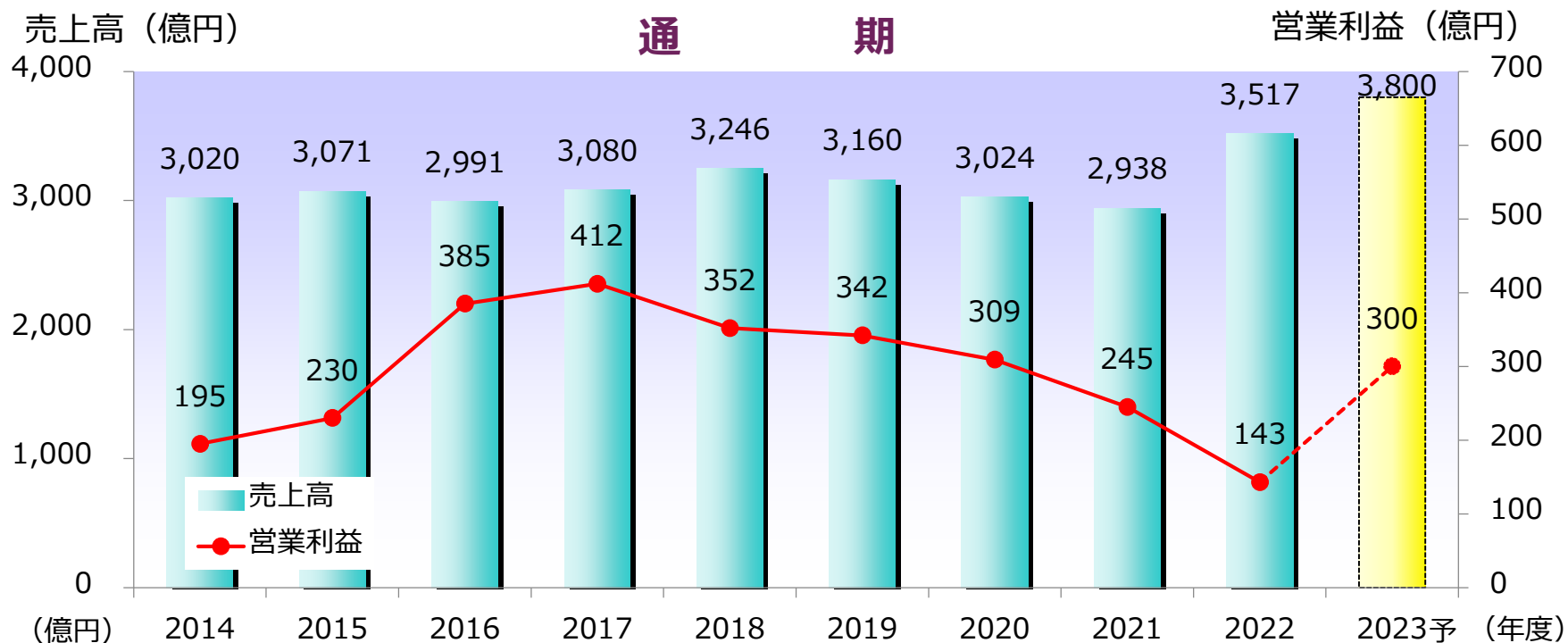
		2022年3月期	2023年3月期	差損益
営業外収益	受取利息・配当金	6	7	1
	その他	62	54	△7
	計	68	62	△6
営業外費用	支払利息	13	15	△2
	その他	41	41	+0
	計	55	57	△1
営業外損益		13	4	△8

特別利益	31	4	△26
特別損失	13	8	+5
特別損益	17	△3	△21

金融収支	△7	△8	△0
------	----	----	----

(注) 差損益の表示は、利益を+、損失を△としている

## 4. 業績推移



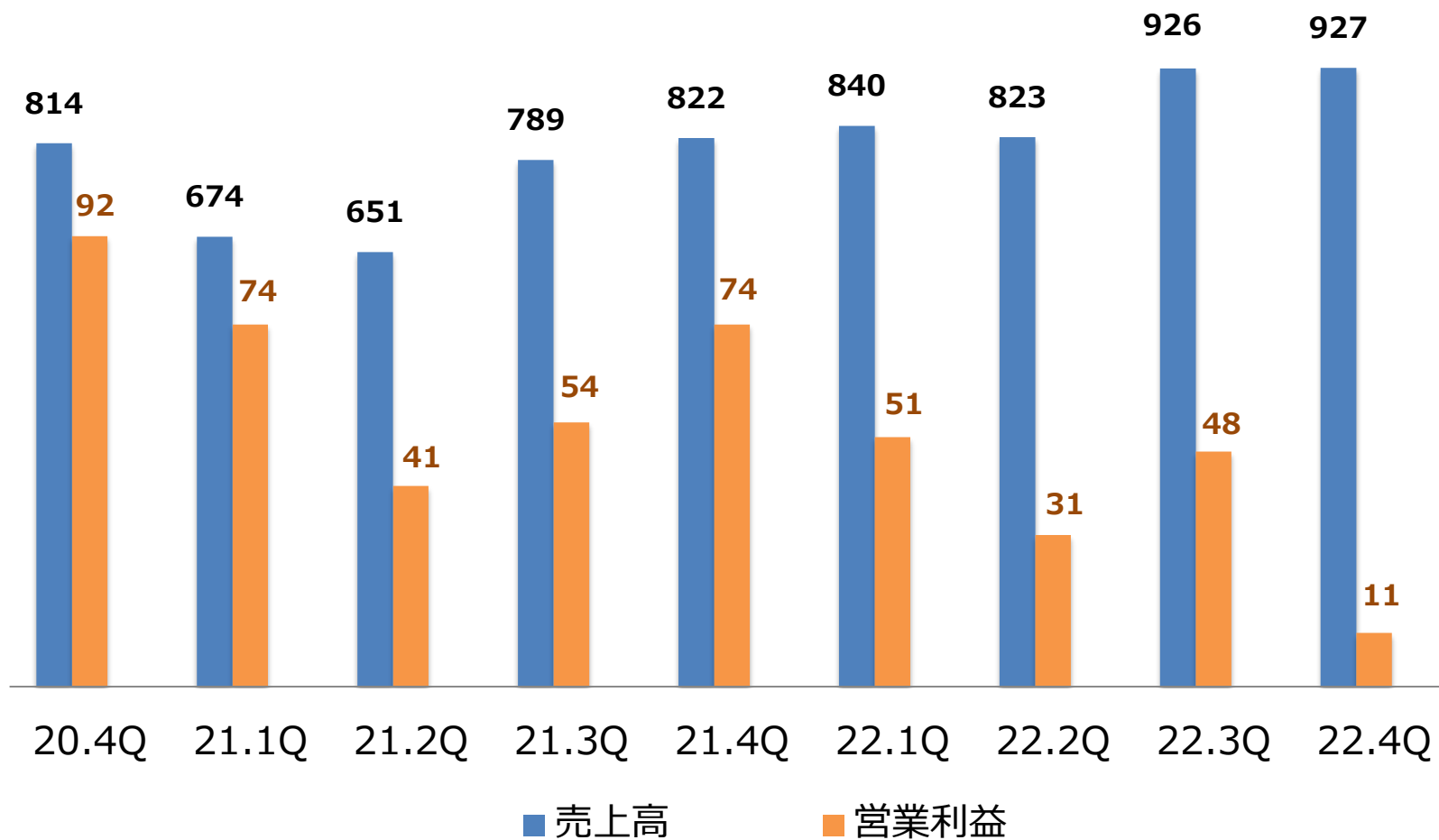


## 4. 業績推移

連結

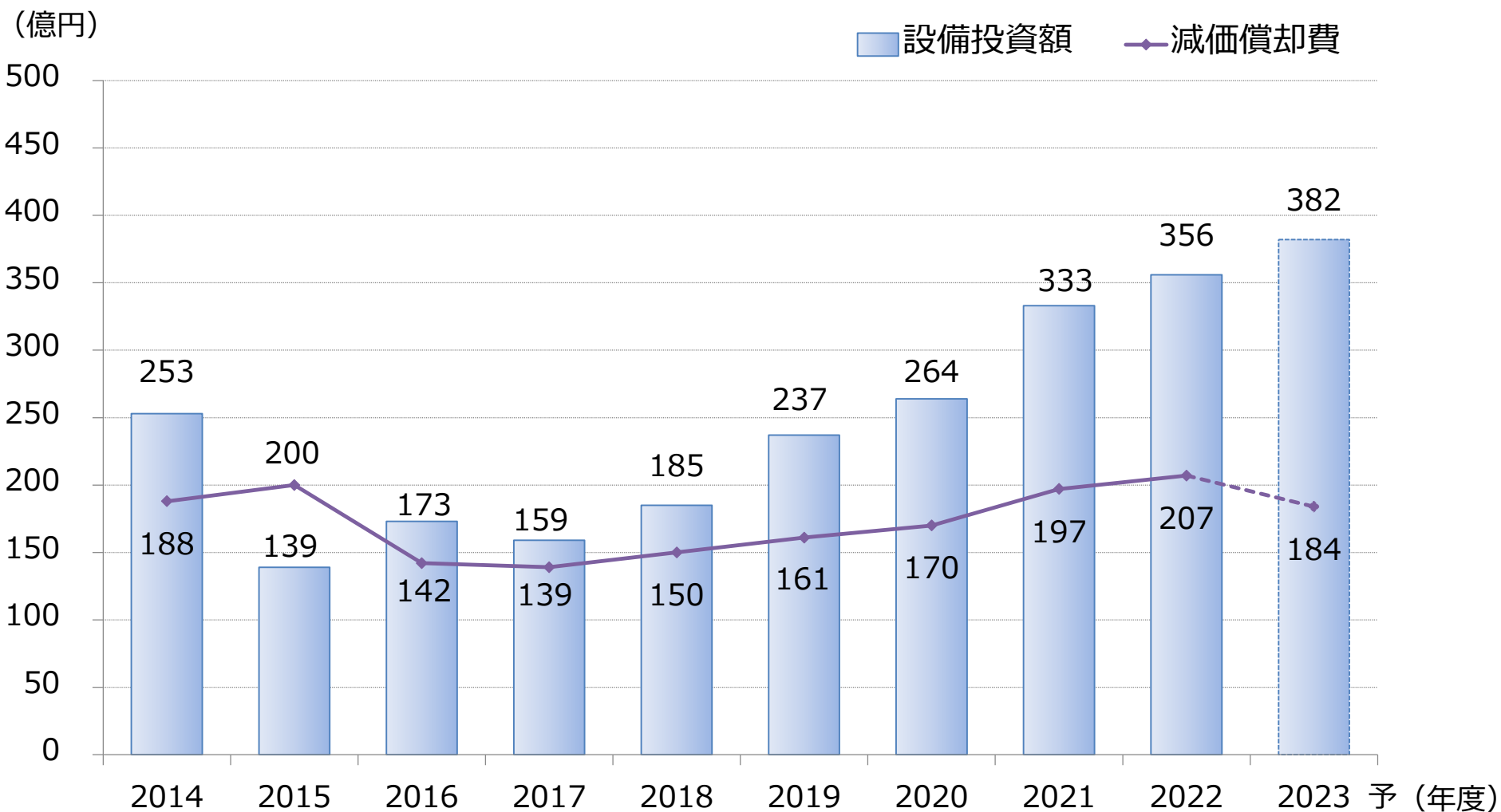
四 半 期

(億円)

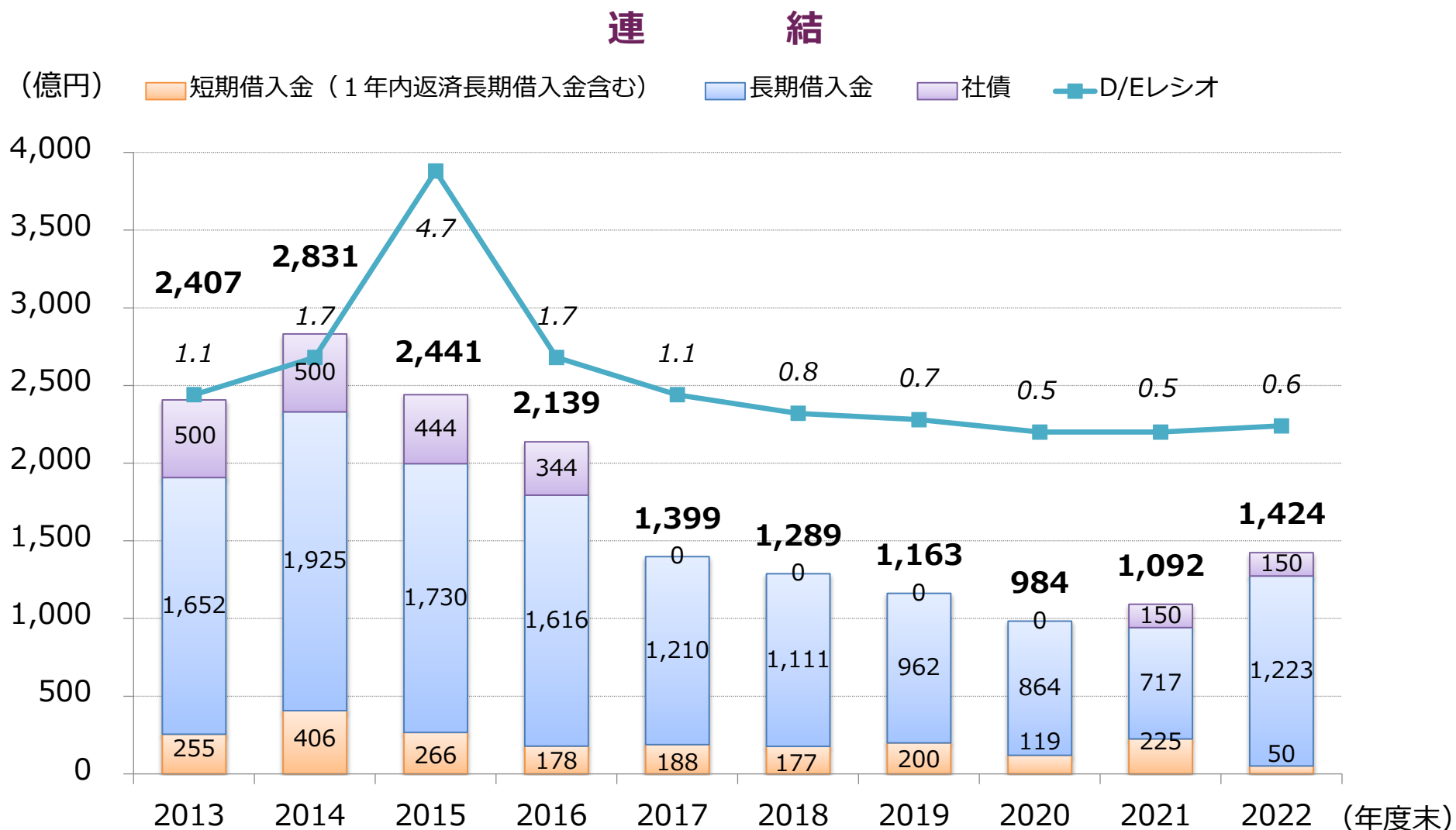


## 5. 設備投資額・減価償却費推移

連 結

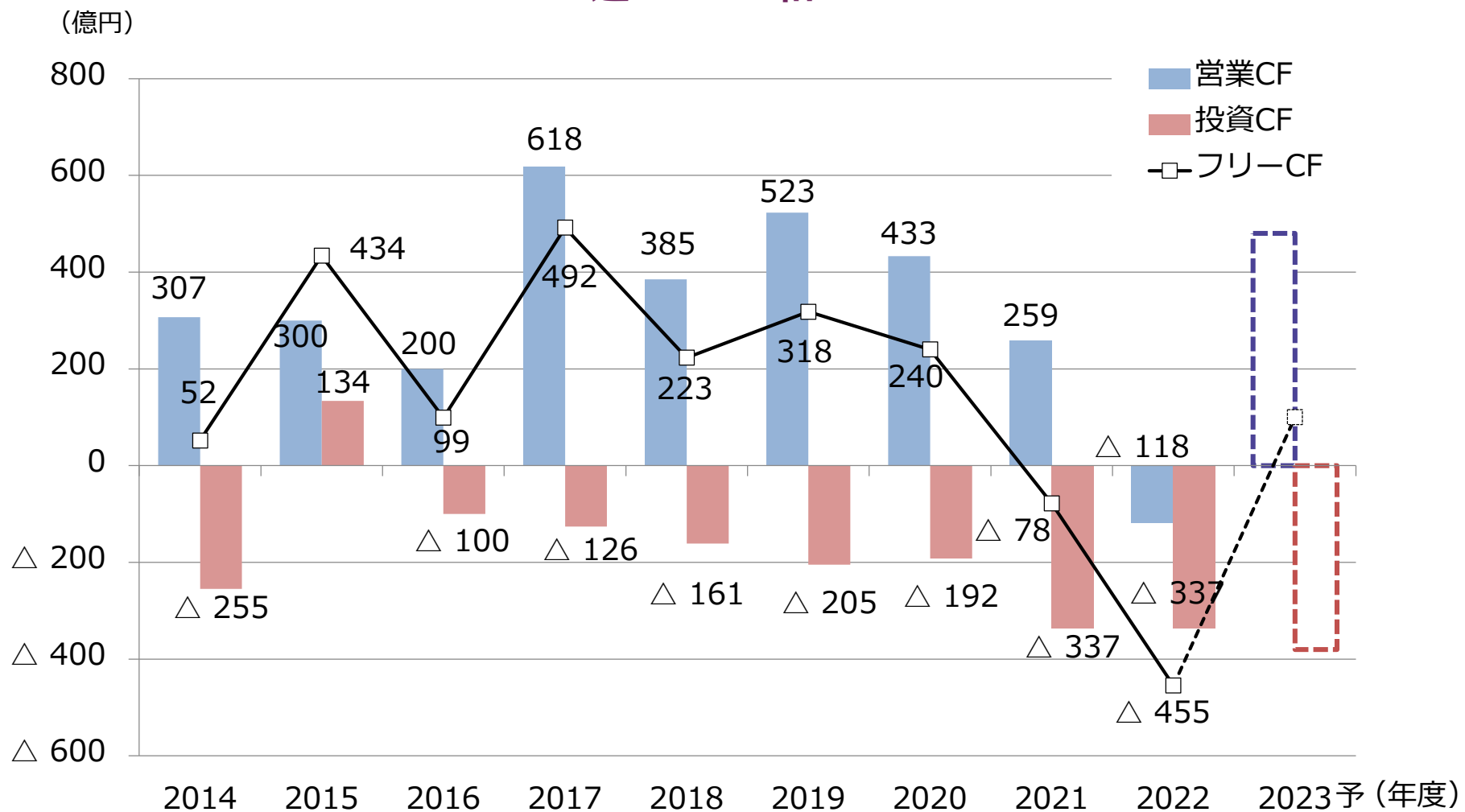


## 6. 有利子負債残高推移



## 7. フリー・キャッシュフロー推移

連 結



# 本資料に関するご注意

本資料は情報提供を目的とするものであり、何らかの勧誘を目的とするものではありません。

本資料は現時点で入手可能な情報に基づき作成したものでありますが、不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。

本資料に記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じるいかなる損失に対しても、当社は責任を負いません。

また、当社の許諾なしに掲載情報を使用（複製、改変、頒布、販売、転載、出版等を含む）することはできません。

もっと未来の人のために

**TOKUYAMA** 